

2023年度

学習の手引き



専門学校 ベルランド看護助産大学校

助産学科 32回生

【科目】 助産学概論	【時期】 前期 【単位 時間数】 1 単位 16 時間	【担当講師】（実務経験） 東京都助産師会館 理事長 岡本 喜代子 (22 年) 専任教員 門雀 由加子 (24 年)																
【概要】 わが国の助産の歴史と文化や母子保健の変遷から助産とは何かを考え、助産師の役割と責務を学ぶ。																		
【到達目標】 1. わが国の助産師の歴史と助産学を支える理論について理解できる。(知識・技能) 2. 助産業務の範囲と法的責任について理解できる。(知識・技能) (思考・判断・表現) 3. 助産学の基本概念および助産師の倫理綱領を学び、助産師の責務と役割を考えることができる。 (知識・技能) (思考・判断・表現) 4. 母子保健の動向・諸制度および助産師教育の変遷を学び、なりたい助産師像を説明できる。 (知識・技能) (思考・判断・表現) (主体的に学習に取り組む態度)																		
【授業計画・内容】 <table border="1" data-bbox="240 819 1378 1480"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第 1 回 (岡本)</td> <td>助産師の歴史 わが国の助産をとりまく状況、わが国と諸外国の助産史</td> </tr> <tr> <td>第 2 回 (岡本)</td> <td>助産師に求められる発展的思考</td> </tr> <tr> <td>第 3 回 (門雀)</td> <td>助産の概念と責務 助産の定義、意義、本質、対象 わが国における助産師の定義</td> </tr> <tr> <td>第 4 回 (門雀)</td> <td>助産師と職業倫理 助産師と生命倫理、助産師と職業倫理</td> </tr> <tr> <td>第 5 回 (門雀)</td> <td>わが国の母子保健の動向 わが国の母子保健の水準、現在のおもな母子保健施策、母子保健の基盤</td> </tr> <tr> <td>第 6 回 (門雀)</td> <td>助産師と教育 わが国における助産師教育、諸外国における助産師教育</td> </tr> <tr> <td>第 7・8 回 (門雀)</td> <td>「どんな助産師になりたい、助産師としてどのような活動をしたいか」 個人ワーク発表、ディスカッション</td> </tr> </tbody> </table>			回数	内容	第 1 回 (岡本)	助産師の歴史 わが国の助産をとりまく状況、わが国と諸外国の助産史	第 2 回 (岡本)	助産師に求められる発展的思考	第 3 回 (門雀)	助産の概念と責務 助産の定義、意義、本質、対象 わが国における助産師の定義	第 4 回 (門雀)	助産師と職業倫理 助産師と生命倫理、助産師と職業倫理	第 5 回 (門雀)	わが国の母子保健の動向 わが国の母子保健の水準、現在のおもな母子保健施策、母子保健の基盤	第 6 回 (門雀)	助産師と教育 わが国における助産師教育、諸外国における助産師教育	第 7・8 回 (門雀)	「どんな助産師になりたい、助産師としてどのような活動をしたいか」 個人ワーク発表、ディスカッション
回数	内容																	
第 1 回 (岡本)	助産師の歴史 わが国の助産をとりまく状況、わが国と諸外国の助産史																	
第 2 回 (岡本)	助産師に求められる発展的思考																	
第 3 回 (門雀)	助産の概念と責務 助産の定義、意義、本質、対象 わが国における助産師の定義																	
第 4 回 (門雀)	助産師と職業倫理 助産師と生命倫理、助産師と職業倫理																	
第 5 回 (門雀)	わが国の母子保健の動向 わが国の母子保健の水準、現在のおもな母子保健施策、母子保健の基盤																	
第 6 回 (門雀)	助産師と教育 わが国における助産師教育、諸外国における助産師教育																	
第 7・8 回 (門雀)	「どんな助産師になりたい、助産師としてどのような活動をしたいか」 個人ワーク発表、ディスカッション																	
【成績評価方法】 事前課題 25 点 (岡本講師) 課題 75 点 (門雀)	【特記事項】																	
【テキスト】 助産学講座 1 「助産学概論」(医学書院) 【参考図書・文献】 子宮力・助産力 助産師基礎教育テキスト第 1 巻 助産概論 母子保健の主なる統計 ・わが国の母子保健																		

【科目】 生殖医療と生命倫理	【時期】 前期 【単位 時間数】 1単位 16時間	【担当講師】（実務経験） 府中のぞみクリニック 助産師 八木 佳奈子（32年） 府中のぞみクリニック 不妊看護CN 奥島 美香（20年） 京都大学医学部附属病院 遺伝子診療部 （認定遺伝カウンセラー） 村上 裕美（28年）																			
【概要】 倫理的課題が生じやすい生殖補助医療、出生前診断の現状を学び、周産期における解決困難な倫理的課題に対応する能力を養う。																					
【到達目標】 1. 不妊症の原因・診断および生殖補助医療の現状を理解する。（知識・技術） 2. 不妊治療を行っている男性女性、カップルの特徴を知り、基本的援助について理解できる。 （知識・技能）（思考・判断・表現） 3. 生殖補助医療をめぐる倫理的課題について理解し、自己の考えを表現できる。 （知識・技術）（思考・判断・表現）（主体的に学習に取り組む態度） 4. 周産期の遺伝医療の現状を学び、助産師として関わる上での倫理的問題を考えることができる。 （思考・判断・表現）（主体的に学習に取り組む態度）																					
【授業計画・内容】																					
<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第1回 （八木）</td> <td>不妊症の診断 生殖補助医療の実際 人工授精・精子処理法・体外受精・ 生殖細胞凍結・卵管不妊カテーテル治療・ 排卵誘発法・着床前遺伝子診断・精巣または精巣上体からの精子回収・</td> </tr> <tr> <td>第2回 （八木）</td> <td>生殖補助医療と課題 （グループワークと発表）</td> </tr> <tr> <td>第3回 （八木）</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第4回 （奥島）</td> <td>不妊に悩む女性とその家族への支援</td> </tr> </tbody> </table>	回数	内容	第1回 （八木）	不妊症の診断 生殖補助医療の実際 人工授精・精子処理法・体外受精・ 生殖細胞凍結・卵管不妊カテーテル治療・ 排卵誘発法・着床前遺伝子診断・精巣または精巣上体からの精子回収・	第2回 （八木）	生殖補助医療と課題 （グループワークと発表）	第3回 （八木）		第4回 （奥島）	不妊に悩む女性とその家族への支援	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第5回 （村上）</td> <td>・ 生命倫理の歴史 ・ 医療従事者と生命倫理 ・ 生命倫理の学説 ・ 論理分析技法・原理・原則主義による医療現場における分析</td> </tr> <tr> <td>第6回 （村上）</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第7回 （村上）</td> <td>・ 倫理分析演習・医療現場における倫理的課題 ・ 倫理ガイドライン、倫理委員会</td> </tr> <tr> <td>第8回 （村上）</td> <td>・ 医療現場における生命倫理課題 ・ 出生前診断と遺伝カウンセリング</td> </tr> </tbody> </table>	回数	内容	第5回 （村上）	・ 生命倫理の歴史 ・ 医療従事者と生命倫理 ・ 生命倫理の学説 ・ 論理分析技法・原理・原則主義による医療現場における分析	第6回 （村上）		第7回 （村上）	・ 倫理分析演習・医療現場における倫理的課題 ・ 倫理ガイドライン、倫理委員会	第8回 （村上）	・ 医療現場における生命倫理課題 ・ 出生前診断と遺伝カウンセリング
回数	内容																				
第1回 （八木）	不妊症の診断 生殖補助医療の実際 人工授精・精子処理法・体外受精・ 生殖細胞凍結・卵管不妊カテーテル治療・ 排卵誘発法・着床前遺伝子診断・精巣または精巣上体からの精子回収・																				
第2回 （八木）	生殖補助医療と課題 （グループワークと発表）																				
第3回 （八木）																					
第4回 （奥島）	不妊に悩む女性とその家族への支援																				
回数	内容																				
第5回 （村上）	・ 生命倫理の歴史 ・ 医療従事者と生命倫理 ・ 生命倫理の学説 ・ 論理分析技法・原理・原則主義による医療現場における分析																				
第6回 （村上）																					
第7回 （村上）	・ 倫理分析演習・医療現場における倫理的課題 ・ 倫理ガイドライン、倫理委員会																				
第8回 （村上）	・ 医療現場における生命倫理課題 ・ 出生前診断と遺伝カウンセリング																				
【成績評価方法】 筆記試験 40点（八木講師） レポート試験 10点（奥島講師） レポート試験 50点（村上講師）	【特記事項】																				
【テキスト】 助産学講座2「母子の基礎科学」（医学書院） 助産師基礎教育テキスト第2巻「ウィメンズヘルス」（日本看護協会出版会） 【参考図書・文献】																					

【科目】 性と生殖の形態機能	【時期】 前期 【単位 時間数】 1単位 16時間	【担当講師】（実務経験） 森ノ宮医療大学 看護学部 教授 木田 岩男 （無し） ベルランド総合病院 産婦人科医師 益田 真志（9年） 専任教員 村田 紋子（25年）															
【概要】 助産の基盤となる人間の性と生殖についての形態機能を理解し、女性のライフサイクル各期の性と生殖に関する疾患について医学的知識を身につける。																	
【到達目標】 1. 性と生殖に関する形態機能が理解できる。（知識・技能） 2. 女性のライフサイクル各期の性と生殖に関連した疾患について理解できる。（知識・技能） 3. 性と生殖に関する形態機能の理解が、根拠に基づいた助産ケアに繋がることが実感できる。 （主体的に学習に取り組む態度）																	
【授業計画・内容】 <table border="1" data-bbox="252 842 1362 1514"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>内容</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第1,2回 (木田)</td> <td> リプロダクションに関する解剖生理 ・ 母性の身体的特徴 ・ 生殖生理に関する視床下部—下垂体機能 ・ 卵巣機能 </td> <td></td> </tr> <tr> <td>第3,4回 (村田)</td> <td>女性生殖器の構造と機能</td> <td>演習</td> </tr> <tr> <td>第5回 (益田)</td> <td> リプロダクションに関する解剖生理 ・ 妊娠の成立と不妊 ・ 胎児胎盤機能 ・ 乳房の構造と乳汁分泌 </td> <td></td> </tr> <tr> <td>第6～8回 (益田)</td> <td> 女性のライフサイクルにおける生殖に関連した疾患 婦人感染症 女性のライフサイクル各期におこるおもな疾患 女性生殖器と乳房の疾患 </td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			回数	内容	備考	第1,2回 (木田)	リプロダクションに関する解剖生理 ・ 母性の身体的特徴 ・ 生殖生理に関する視床下部—下垂体機能 ・ 卵巣機能		第3,4回 (村田)	女性生殖器の構造と機能	演習	第5回 (益田)	リプロダクションに関する解剖生理 ・ 妊娠の成立と不妊 ・ 胎児胎盤機能 ・ 乳房の構造と乳汁分泌		第6～8回 (益田)	女性のライフサイクルにおける生殖に関連した疾患 婦人感染症 女性のライフサイクル各期におこるおもな疾患 女性生殖器と乳房の疾患	
回数	内容	備考															
第1,2回 (木田)	リプロダクションに関する解剖生理 ・ 母性の身体的特徴 ・ 生殖生理に関する視床下部—下垂体機能 ・ 卵巣機能																
第3,4回 (村田)	女性生殖器の構造と機能	演習															
第5回 (益田)	リプロダクションに関する解剖生理 ・ 妊娠の成立と不妊 ・ 胎児胎盤機能 ・ 乳房の構造と乳汁分泌																
第6～8回 (益田)	女性のライフサイクルにおける生殖に関連した疾患 婦人感染症 女性のライフサイクル各期におこるおもな疾患 女性生殖器と乳房の疾患																
【成績評価方法】 筆記試験 30点（木田講師） 筆記試験 70点（益田講師）	【特記事項】																
【テキスト】 助産学講座2「母子の基礎科学」（医学書院） 【参考図書・文献】 助産師基礎教育テキスト第2巻「ウィメンズヘルス」（日本看護協会出版会）																	

【科目】 周産期医学	【時期】 前期 【単位 時間数】 2単位 30時間	【担当講師】（実務経験） ベルランド総合病院 産婦人科 医師 松木 貴子（13年） 松山佳奈子（9年） 濱田 真一（30年） 田村 聡（5年）
----------------------	--	---

【概要】

マタニティケアの基盤となる、妊娠・分娩・産褥に各期の生理と周産期のハイリスクおよび異常についての病態および診断と治療について学ぶ。

【到達目標】

1. 妊娠・分娩・産褥の生理を理解する。（知識・技能）（思考・判断・表現）
2. 妊娠・分娩・産褥各期のハイリスクと異常の病態および診断と治療について理解する。（知識・技能）（思考・判断・表現）
3. 胎児、胎児付属物の状態をアセスメントするために必要な検査法について理解する。（知識・技能）（思考・判断・表現）

【授業計画・内容】

回数	内容	回数	内容
第1回 (田村)	妊娠の生理 ・妊娠とそれに伴う母体の変化 ・胎児の発育と胎児付属物	第9回 (田村)	分娩に伴う損傷・偶発疾患・合併症 ・産道損傷、弛緩出血
第2回 (田村)	妊娠期の異常 ・妊娠疾患、妊娠持続期間異常	第10回 (田村)	分娩に伴う損傷・偶発疾患・合併症 ・産科ショック、合併症
第3回 (松木)	妊娠期の異常 ・着床異常、胎児異常妊娠、胎児付属物異常妊娠	第11回 (濱田)	産褥期におこる身体的な問題 性器の異常、周産期感染症、血管に関連する異常、産後後遺症、産褥心筋症
第4回 (松木)	ハイリスク妊娠 ・偶発疾患合併妊娠	第12回 (濱田)	周産期に用いられる検査法・薬物
第5回 (松木)	ハイリスク妊娠 ・母子感染症	第13回 (濱田)	妊娠期に行われる産科手術および産科医療処置
第6回 (松山)	分娩の生理 ・分娩の定義と種類、分娩の3要素	第14回 (濱田)	分娩期に行われる産科手術および産科医療処置
第7回 (松山)	分娩の生理 ・分娩が母体に及ぼす影響	第15回 (濱田)	産科救急と産科麻酔（無痛分娩含む）
第8回 (松山)	分娩期の異常 ・分娩の3要素の異常		

【成績評価方法】

筆記試験 35点（松木・田村講師）
 筆記試験 35点（松山・田村講師）
 筆記試験 30点（濱田講師）

【特記事項】
【テキスト】

助産学講座6「助産診断・技術学Ⅱ〔1〕妊娠期」（医学書院）
 助産学講座7「助産診断・技術学Ⅱ〔1〕分娩期・産褥期」（医学書院）

【参考図書・文献】

- ・図説 CTG ハンドブック
- ・助産師外来で役立つ超音波検査 ガイドブック
- ・産婦人科診療ガイドライン産科編 2020
- ・病気が見える Vol.10 産科第4版

【科目】 新生児・乳幼児学	【時期】 前期 【単位 時間数】 1単位 16時間	【担当講師】（実務経験） ベルランド総合病院 周産期母子センター 小児科 顧問 大島 利夫（38年） ベルランド総合病院 小児科 医師 甲斐 昌彦（21年）
-----------------------------	--	--

【概要】
 免疫学の基礎について学習したうえで、母子の免疫の特徴を学ぶ。
 新生児・乳幼児の生理と成長発達とハイリスク新生児の主要な病態と診断、治療を学ぶ。

- 【到達目標】**
1. 新生児の子宮外生活への適応が理解できる。（知識・技能）（思考・判断・表現）
 2. 母体・胎児・新生児の免疫学的特性が理解できる。（知識・技能）（思考・判断・表現）
 3. 乳幼児の発育と健康診査の目的が理解できる。（知識・技能）（思考・判断・表現）
 4. ハイリスク新生児の主要な病態と診断、治療が理解できる。（知識・技能）（思考・判断・表現）

【授業計画・内容】

回数	内容	回数	内容
第1回 (大島)	母子と免疫 ・免疫学概論	第5回 (大島)	乳幼児の発育と健康診査 乳幼児のおもな疾患の病態・診断・治療
第2回 (大島)	母子と免疫 ・母体・胎児・新生児の免疫学的特性	第6回 (甲斐)	新生児医療について ・ハイリスク新生児のケアの考え方 ・生理的適応を助けるケア ・早産児の保育環境 ・NICUにおける母子関係の確立 ・家族のケアと協働
第3回 (大島)	新生児の適応生理 ・呼吸、循環の適応 ・体温調節 ・肝機能の適応	第7回 第8回 (甲斐)	新生児の医学的特徴 ハイリスク児の主要な病態 1) 呼吸障害を引き起こす疾患 2) 先天性心疾患 3) 血液疾患 4) 嘔吐と腹部膨満を引き起こす疾患 5) 吐血や下血を引き起こす疾患 6) 内分泌疾患 7) けいれんを引き起こす疾患 8) 新生児眼疾患 9) 外表奇形 10) 染色体異常 11) 感染症
第4回 (大島)	新生児の適応生理 ・消化器系の適応 ・水、電解質バランスと腎機能の適応 ・免疫系の適応 ・行動と感覚器系の適応		

【成績評価方法】 筆記試験 60点（大島講師） 筆記試験 40点（甲斐講師）	【特記事項】
---	---------------

【テキスト】
 助産学講座8「助産診・断技術学Ⅱ[3]新生児期・乳幼児期」（医学書院）
 助産学講座2「母子の基礎科学」（医学書院）

【参考図書・文献】
 新生児学入門（医学書院）

【科目】 母子の心理社会学	【時期】 前期 【単位 時間数】 1単位 16時間	【担当講師】（実務経験） 関西福祉科学大学 社会福祉学部名誉教授 鎌田 次郎（5年） 大阪府立大学大学院 人間社会学部 教授 岡本 真彦（無し） ペルランド総合病院 臨床心理士 溝口由里子（38年）																																		
【概要】 母子の心理社会的特徴、母子関係の形成と現代の子育てに関する諸問題を学び、助産師として親役割支援の在り方を考える。																																				
【到達目標】 1. 初期母子関係の発達について理解できる。(知識・技術) 2. 乳幼児の認知・運動・言葉・社会性の発達について理解できる。(知識・技術) (思考・判断・表現) 3. 現代の母親の心理的特徴と児童虐待の現状から自己の意見を述べるができる。 (知識・技術) (思考・判断・表現) (主体的に学習に取り組む態度)																																				
【授業計画・内容】																																				
<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第1回</td> <td>初期母子関係の発達</td> </tr> <tr> <td>第2回</td> <td>・ 胎児期から誕生までの子どもの感覚</td> </tr> <tr> <td>第3回</td> <td>・ 誕生時の出会い</td> </tr> <tr> <td>(鎌田)</td> <td>・ 満1歳までの発達</td> </tr> <tr> <td></td> <td>・ 母子関係の発達と周産期医療・ケア</td> </tr> <tr> <td></td> <td>・ 乳幼児期の母子関係と子どもの発達</td> </tr> <tr> <td>第4回</td> <td>乳幼児の心理社会的発達</td> </tr> <tr> <td>第5回</td> <td>・ 発達の意味</td> </tr> <tr> <td>(岡本)</td> <td>・ 発達の生物学的意味</td> </tr> <tr> <td></td> <td>・ 乳児の知的発達</td> </tr> <tr> <td></td> <td>・ 運動発達と人との関わりの発達</td> </tr> <tr> <td></td> <td>・ 言葉の発達</td> </tr> <tr> <td></td> <td>・ 乳児の社会的発達</td> </tr> </tbody> </table>	回数	内容	第1回	初期母子関係の発達	第2回	・ 胎児期から誕生までの子どもの感覚	第3回	・ 誕生時の出会い	(鎌田)	・ 満1歳までの発達		・ 母子関係の発達と周産期医療・ケア		・ 乳幼児期の母子関係と子どもの発達	第4回	乳幼児の心理社会的発達	第5回	・ 発達の意味	(岡本)	・ 発達の生物学的意味		・ 乳児の知的発達		・ 運動発達と人との関わりの発達		・ 言葉の発達		・ 乳児の社会的発達	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第6回</td> <td rowspan="8"> 現代女性のメンタルヘルスと児童虐待 ・ 周産期の女性の心理とストレス ・ 現代の母性と母子関係 ・ 児童虐待の種類と特徴、子どもへの影響 ・ 虐待する親の心理 ・ 児童虐待に対する援助 ・ 思春期の性 </td> </tr> <tr> <td>第7回</td> </tr> <tr> <td>第8回</td> </tr> <tr> <td>(溝口)</td> </tr> </tbody> </table>	回数	内容	第6回	現代女性のメンタルヘルスと児童虐待 ・ 周産期の女性の心理とストレス ・ 現代の母性と母子関係 ・ 児童虐待の種類と特徴、子どもへの影響 ・ 虐待する親の心理 ・ 児童虐待に対する援助 ・ 思春期の性	第7回	第8回	(溝口)
回数	内容																																			
第1回	初期母子関係の発達																																			
第2回	・ 胎児期から誕生までの子どもの感覚																																			
第3回	・ 誕生時の出会い																																			
(鎌田)	・ 満1歳までの発達																																			
	・ 母子関係の発達と周産期医療・ケア																																			
	・ 乳幼児期の母子関係と子どもの発達																																			
第4回	乳幼児の心理社会的発達																																			
第5回	・ 発達の意味																																			
(岡本)	・ 発達の生物学的意味																																			
	・ 乳児の知的発達																																			
	・ 運動発達と人との関わりの発達																																			
	・ 言葉の発達																																			
	・ 乳児の社会的発達																																			
回数	内容																																			
第6回	現代女性のメンタルヘルスと児童虐待 ・ 周産期の女性の心理とストレス ・ 現代の母性と母子関係 ・ 児童虐待の種類と特徴、子どもへの影響 ・ 虐待する親の心理 ・ 児童虐待に対する援助 ・ 思春期の性																																			
第7回																																				
第8回																																				
(溝口)																																				
【成績評価方法】 レポート試験 35点 (鎌田講師) レポート試験 30点 (岡本講師) レポート試験 35点 (溝口講師)		【特記事項】																																		
【テキスト】 助産学講座4「母子の心理・社会学」(医学書院)																																				
【参考図書・文献】																																				

【科目】 母子の健康科学	【時期】 前期 【単位 時間数】 1単位 16時間	【担当講師】(実務経験) ベルランド総合病院 管理栄養士 近藤 貴子 (16年) 生長会本部 医療技術統括 薬剤師 小泉 祐一 (26年)																					
【概要】 薬剤や栄養が母子の健康に影響を及ぼすについて理解し、女性の生涯の健康や次世代育成に向けての支援の基盤とする。																							
【到達目標】 1. 妊産婦や乳幼児の理想的な栄養と治療として食事療法の基本が理解できる。 (知識・技能) (思考・判断・表現) 2. 周産期における薬剤使用の原則を理解する。(知識・技能) (思考・判断・表現)																							
【授業計画・内容】																							
<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>内容</th> <th>回数</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第1回 (近藤)</td> <td>母子の健康と食生活 ・ 妊娠期・授乳期の栄養と食生活 栄養に関する基礎知識 ・ 「日本人の食事摂取基準」の基礎知識 ・ 栄養状態の評価</td> <td>第5回 (小泉)</td> <td>薬理学総論 薬理学の基礎</td> </tr> <tr> <td>第2・3回 (近藤)</td> <td>妊婦の栄養 ・ 妊婦の栄養と食生活 ・ 母体の栄養と胎児の発育 ・ 妊産婦のための食生活指針</td> <td>第6回 (小泉)</td> <td>周産期と薬剤 妊娠中の薬剤使用・授乳期の薬剤使用</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>第7回 (小泉)</td> <td>周産期と薬剤 妊娠中の薬剤服用の原則 妊娠中に実際に注意すべき薬剤</td> </tr> <tr> <td>第4回 (近藤)</td> <td>授乳期の栄養 ・ 授乳期の食事と母乳分泌 ・ 妊娠糖尿病既往女性の出産後の留意点 乳幼児の栄養 ・ 乳幼児の発育・発達と食生活の意義 ・ 乳汁栄養 母乳育児の留意点 離乳期の栄養 ・ 幼児期の食と栄養 ・ 乳幼児期の病態栄養 学童思春期の子どもの栄養</td> <td>第8回 (小泉)</td> <td>周産期と薬剤 薬剤服用に関するカウンセリング 母子と嗜好品薬物</td> </tr> </tbody> </table>	回数	内容	回数	内容	第1回 (近藤)	母子の健康と食生活 ・ 妊娠期・授乳期の栄養と食生活 栄養に関する基礎知識 ・ 「日本人の食事摂取基準」の基礎知識 ・ 栄養状態の評価	第5回 (小泉)	薬理学総論 薬理学の基礎	第2・3回 (近藤)	妊婦の栄養 ・ 妊婦の栄養と食生活 ・ 母体の栄養と胎児の発育 ・ 妊産婦のための食生活指針	第6回 (小泉)	周産期と薬剤 妊娠中の薬剤使用・授乳期の薬剤使用			第7回 (小泉)	周産期と薬剤 妊娠中の薬剤服用の原則 妊娠中に実際に注意すべき薬剤	第4回 (近藤)	授乳期の栄養 ・ 授乳期の食事と母乳分泌 ・ 妊娠糖尿病既往女性の出産後の留意点 乳幼児の栄養 ・ 乳幼児の発育・発達と食生活の意義 ・ 乳汁栄養 母乳育児の留意点 離乳期の栄養 ・ 幼児期の食と栄養 ・ 乳幼児期の病態栄養 学童思春期の子どもの栄養	第8回 (小泉)	周産期と薬剤 薬剤服用に関するカウンセリング 母子と嗜好品薬物			
回数	内容	回数	内容																				
第1回 (近藤)	母子の健康と食生活 ・ 妊娠期・授乳期の栄養と食生活 栄養に関する基礎知識 ・ 「日本人の食事摂取基準」の基礎知識 ・ 栄養状態の評価	第5回 (小泉)	薬理学総論 薬理学の基礎																				
第2・3回 (近藤)	妊婦の栄養 ・ 妊婦の栄養と食生活 ・ 母体の栄養と胎児の発育 ・ 妊産婦のための食生活指針	第6回 (小泉)	周産期と薬剤 妊娠中の薬剤使用・授乳期の薬剤使用																				
		第7回 (小泉)	周産期と薬剤 妊娠中の薬剤服用の原則 妊娠中に実際に注意すべき薬剤																				
第4回 (近藤)	授乳期の栄養 ・ 授乳期の食事と母乳分泌 ・ 妊娠糖尿病既往女性の出産後の留意点 乳幼児の栄養 ・ 乳幼児の発育・発達と食生活の意義 ・ 乳汁栄養 母乳育児の留意点 離乳期の栄養 ・ 幼児期の食と栄養 ・ 乳幼児期の病態栄養 学童思春期の子どもの栄養	第8回 (小泉)	周産期と薬剤 薬剤服用に関するカウンセリング 母子と嗜好品薬物																				
【成績評価方法】 筆記試験 50点 (近藤講師) 筆記試験 50点 (小泉講師)		【特記事項】																					
【テキスト】 助産学講座3「母子の健康科学」(医学書院) 【参考図書・文献】 文) 糖尿病食事療法のための食品交換表																							

【科目】 助産実践の基盤	【時期】 前期 【単位 時間数】 1単位 30時間	【担当講師】（実務経験） 京都市立芸術大学 共通教育 教職課程 准教授 堀田 千絵（無し） 専任教員 村田 紋子（25年）
----------------------------	--	---

【概要】
 助産診断技術学の概要を理解し、助産実践に必要な概念や基礎理論を学ぶ。
 助産技術の習得に向け、母性看護技術と相談・教育の基本技術を確実に修得する。

- 【到達目標】**
1. 助産診断技術学の概要を理解し、助産実践に必要な概念や基礎理論を学ぶ。
 （知識・技能）（思考・判断・表現）
 2. 助産実践に必要なコミュニケーション技術が理解できる。
 （知識・技能）（思考・判断・表現）
 3. 助産実践の基盤である妊産褥婦・新生児の身体的側面のアセスメントに必要なフィジカルイグザミネーションの技術を習得する。（知識・技能）（思考・判断・表現）（主体的に学習に取り組む態度）

【授業計画・内容】

回数	内容
第1回（村田）	助産診断・助産技術・助産ケアとは 助産過程・助産診断学・助産技術学の概要、臨床判断と臨床診断、助産実践とリフレクション
第2・3回（村田）	新生児のフィジカルイグザミネーションと育児技術
第4回（村田）	相談・教育技術の基本としてのコミュニケーション 診断・多職種協働のためのコミュニケーション
第5回（村田）	リフレクションの実際 ～自分の実践した看護を振り返ってみよう～
第6・7回（村田）	妊婦のフィジカルイグザミネーション
第8・9回（村田）	相談・教育の基本と方法 ・ライフサイクル、ジェンダーにそった対象理解、成人教育の留意点、セルフケア理論、エンパワメント、意思決定支援
第10・11回（村田）	相談・教育の過程
第12・13回（堀田）	カウンセリングの理論と実際（1） 基礎理論およびロールプレイによる自己知覚
第14・15回（堀田）	カウンセリングの理論と実際（2） カウンセリング技法およびロールプレイの実践

【成績評価方法】 レポート試験 25点（堀田講師） 課題提出 75点（村田）	【特記事項】 基礎的なスキルの修得には原理・原則を理解し、繰り返し練習することが必要です。 主体的に技術習得に取り組んでください。
---	--

【テキスト】
 助産学講座5「助産診断技術学Ⅰ」（医学書院）
 助産学講座6「助産診断技術学Ⅱ〔1〕妊娠期」（医学書院）
 「根拠と事故防止に基づいた母性看護技術」（医学書院）
 写真でわかる助産技術アドバンス（インターメディカ）

【参考図書・文献】
 アセスメントに自信がつく臨床推論入門（メディカ出版）

【科目】 助産診断技術学Ⅰ	【時期】 4～5月 前期 【単位 時間数】 1単位 30時間	【担当講師】（実務経験） 専任教員 門雀 由加子 （24年）																	
【概要】 妊娠期は長い経過の中で母児に生理的な変化が起こる。また妊婦とその家族の心理社会的にも大きく変化する。その経過が正常に巡り、安全で安心な分娩や安定した育児に繋がるには、妊娠期からの助産師の的確な助産診断とケアが必要である。ゆえに妊娠期助産師の役割と責務を理解して妊婦と家族の健康状態を多面的にとらえた診断とケアについて学ぶ。																			
【到達目標】 1. 妊娠期における生理的・心理的・社会的変化を理解することができる。（知識・技能） 2. 妊娠期の身体的・心理的・社会的側面から経過を診断することができる。 （知識・技能）（思考・判断・表現） 3. 診断のもと正常からの逸脱を予防し、主体的な分娩、育児に繋ぐ助産ケアについて理解することができる。 （知識・技能）（思考・判断・表現）（主体的に学習に取り組む態度）																			
【授業計画・内容】																			
<table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>内容</th> <th>回</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第1回</td> <td>妊娠期における助産師の役割と責務</td> <td>8～10回</td> <td>妊娠経過に対応したケア事例展開</td> </tr> <tr> <td>2～5回</td> <td>妊娠期のフィジカルアセスメント 妊婦健康診査 妊娠の診断 妊娠期の経過診断 胎児発育・健康状態の診断</td> <td>11～13回</td> <td>妊婦の日常生活におけるケア マイナートラブル 衣・食・住・運動等 保健指導</td> </tr> <tr> <td>6～7回</td> <td>妊婦の心理・社会的側面のアセスメント</td> <td>14～15回</td> <td>妊婦や家族の親準備・出産準備へのケア</td> </tr> </tbody> </table>	回	内容	回	内容	第1回	妊娠期における助産師の役割と責務	8～10回	妊娠経過に対応したケア事例展開	2～5回	妊娠期のフィジカルアセスメント 妊婦健康診査 妊娠の診断 妊娠期の経過診断 胎児発育・健康状態の診断	11～13回	妊婦の日常生活におけるケア マイナートラブル 衣・食・住・運動等 保健指導	6～7回	妊婦の心理・社会的側面のアセスメント	14～15回	妊婦や家族の親準備・出産準備へのケア			
回	内容	回	内容																
第1回	妊娠期における助産師の役割と責務	8～10回	妊娠経過に対応したケア事例展開																
2～5回	妊娠期のフィジカルアセスメント 妊婦健康診査 妊娠の診断 妊娠期の経過診断 胎児発育・健康状態の診断	11～13回	妊婦の日常生活におけるケア マイナートラブル 衣・食・住・運動等 保健指導																
6～7回	妊婦の心理・社会的側面のアセスメント	14～15回	妊婦や家族の親準備・出産準備へのケア																
【成績評価方法】 課題提出 20点 筆記試験 80点		【特記事項】 主体的に課題に取り組み、事前準備をしておくことが必要です。個人の学習もクラスで共有し学びを深めます。随時、グループワークや発表会、演習なども行います。																	
【テキスト】 助産学講座6「助産診断・技術学Ⅱ〔1〕妊娠期」（医学書院） 助産師基礎教育テキスト4「妊娠期の診断とケア」（日本看護協会出版会） 実践マタニティ診断第5版（医学書院）【参考図書・文献】 今日の助産（南江堂） 根拠と事故防止からみた看護技術（医学書院） 母子健康手帳、母子健康手帳副読本（母子衛生研究会）																			

【科目】 助産診断技術学Ⅱ	【時期】 4～6月 前期 【単位 時間数】 2単位 60時間	【担当講師】（実務経験） 専任教員 宮下 宏美 （18年）
-------------------------	---	--

【概要】

助産師は分娩期に母児の2つの命にかかわる。分娩は生理的な変化ととらえられるが、正常から逸脱し異常に陥る可能性もある。分娩の進行状態は刻一刻、または瞬時に変化するため、的確に分娩進行を診断・アセスメントする能力が必要である。母児共に安全でより良い出産体験となるように分娩期に必要な助産診断や助産ケアについて学ぶ。また科学的根拠に基づいた分娩介助法を学ぶ。

【到達目標】

- ①分娩期における身体的・心理的・社会的状態について理解できる。（知識・技能）
- ②分娩期の助産診断および、分娩予測について理解できる。（知識・技能）
- ③助産診断に基づき、正常からの逸脱を判断し、安全で安心な助産ケアについて理解できる。
（知識・技能）（思考・判断・表現）（主体的に学習に取り組む態度）
- ④正常経過における分娩介助の基礎的実践技術を理解することができる。
（知識・技能）（思考・判断・表現）（主体的に学習に取り組む態度）

【授業計画・内容】

回	内容	回	内容
第1回	導入・講義の概要 分娩の生理	第14～16回	産婦への支援
第2～3回	分娩経過の診断に必要な知識	第17～18回	分娩介助技術
第4～5回	分娩経過の診断・ アセスメントの視点	第19～24回	分娩介助法 胎児付属物の検査と計測
第5～8回	分娩期の助産診断	第25～26回	出生直後の新生児のアセスメントとケア
第9回	助産師が行う分娩期のケア	第27～28回	フリースタイル分娩
第10～13回	分娩経過に伴う診断・ アセスメントとケア	第29～30回	分娩進行に伴う正常経過 逸脱の予測と予防

【成績評価方法】

課題提出 20点
筆記試験 80点

【特記事項】

事前学習や復習、課題に積極的に取り組み、内容をイメージして理解を深めて下さい。
分娩介助技術や助産ケアの理解を深めるため演習を行います

【テキスト】

助産学講座7「助産診断・技術学Ⅱ〔2〕分娩期・産褥期」（医学書院）
助産師基礎教育テキスト5「分娩期の診断とケア」（日本看護協会出版会）
実践マタニティ診断第5版（医学書院）
写真でわかる助産技術アドバンス（インターメディカ）

【参考図書・文献】

助産師基礎教育テキスト7「ハイリスク妊産褥婦・新生児のケア」（日本看護協会出版会）
今日の助産（南江堂） 病気がみえる10 産科（メディックメディア）
産婦人科診療ガイドライン 産科編2020（日本産科婦人科学会）
根拠と事故防止からみた母性看護技術

【科目】 助産診断技術学Ⅲ	【時期】 前期 【単位 時間数】 1単位 30時間	【担当講師】(実務経験) 専任教員 村田 紋子 (25年)
------------------	------------------------------------	-------------------------------------

【概要】

産褥期は分娩後の退行性変化と進行性変化に関する経過の診断とケアを行いながら女性および家族のセルフケア能力を高められるような支援が求められる。また、新生児に対して、妊娠・分娩の影響や、母体外生活への適応状態に関わる注意深い観察と診断、異常を早期に発見し、適切な処置・ケアを行うことが重要である。ここではそれぞれの特性と母子相互の作用を診断し、それらを円滑にするための支援や母乳育児を含めた健康管理の支援を学ぶ。

【到達目標】

- 産褥期の生理的・心理的・社会的変化を理解し、経過診断ができる。
(知識・技能) (思考・判断・表現)
- 新生児期の子宮外適応を理解し、経過診断ができる。
(知識・技能) (思考・判断・表現)
- 母乳育児の基本的知識と支援について理解することができる (知識・技能) (思考・判断・表現)
- 女性および家族のセルフケア能力を高める支援を考えることができる。
(知識・技能) (思考・判断・表現)

【授業計画・内容】

回	内容	備考
第1・2回	助産師が行う産褥期・新生児期のケア 褥婦のニーズとセルフケア① 退行性変化の促進/日常生活援助/セルフケア能力を高めるケア	
第3回	親役割を支えるケア 産褥の心理・社会的変化/親子の絆とアタッチメント形成 /家族関係・機能の再調整を支えるケア	
第4回	新生児のニーズとケア ・ 体温維持/身体の清潔/感染予防/黄疸のケア ・ 記録と安全管理 ・スクリーニング	
第5・6・7回	母乳育児支援 ・ 乳房の形態/乳房の機能 ・ 吸嚙・嚙下・呼吸にかかわる新生児の解剖と機能 ・ 授乳の方法 ・ 授乳中に起こりやすいトラブル ・ 母乳育児支援に必要な情報とケア	演習含む
第8～12回	産後入院中の母子のアセスメントとケア 分娩当日～24時間以内/24時間以降/退院に向けて	紙上事例
第13・14回	母子同室開始時に必要な保健指導	演習
第15回	産後1か月の母子のアセスメントとケア	

【成績評価方法】

課題提出 20点
筆記試験 80点

【特記事項】

【テキスト】

助産学講座7「助産診断・技術学Ⅱ[2]分娩期・産褥期」(医学書院)
助産師基礎教育テキスト6「産褥期のケア」(日本看護協会出版会)

【参考図書・文献】

【科目】 助産診断技術学 実践 I	【時期】 前期 (実習開始前) 【単位 時間数】 1 単位 30 時間	【担当講師】 (実務経験) 専任教員 宮下 宏美 (18 年) 専任教員 門雀由加子 (24 年) 専任教員 村田 紋子 (25 年)
-----------------------------	--	---

【概要】
 出生数の激減や妊産婦や家族の意識の変化から助産学実習での経験が困難となり、多くを経験できない現状がある。また助産学生の実習は学生であっても母子に直接ケアする実践者として関わっていく。そのため実習で実践する助産技術が母子にとって安全安楽であり、的確な技術である保証が必要である。実習開始前に必要な基礎的な助産技術を習得し、対象や状況に合わせたケアについて学ぶ。

- 【到達目標】**
1. 出生直後の新生児の発育状態のアセスメントと子宮外生活への適応の観察・ケアが実施できる。
 (知識・技能) (思考・判断・表現) (主体的に学習に取り組む態度)
 2. 原理に基づいた正しい手技で、安全性を考慮した分娩介助ができる。
 (知識・技能) (思考・判断・表現) (主体的に学習に取り組む態度)
 3. 妊婦、産褥の母子の状況に応じてアセスメントやケアに必要な情報を収集することができる。
 (知識・技能) (思考・判断・表現) (主体的に学習に取り組む態度)
 4. アセスメントに基づいて、妊婦、産褥の母子に対して、保健指導を実施し評価できる。
 (知識・技能) (思考・判断・表現) (主体的に学習に取り組む態度)

【授業計画・内容】

回数	内容	回数	内容
第 1～3 回 (宮下)	ベビーキャッチ技術試験	第 10～15 回 (宮下)	分娩介助技術試験
第 4～6 回 (門雀)	妊婦健康診査、保健指導演習		
第 7～9 回 (村田)	褥婦と新生児の健康診査、保健指導演習		

【成績評価方法】 技術試験 70 点 (ベビーキャッチ 20 点、分娩介助 50 点) 演習出席・課題レポート 30 点	【特記事項】 臨地実習でのベビーキャッチ・分娩介助の実践は、ベビーキャッチ技術試験・分娩介助技術試験が合格している事が条件である。
--	---

【テキスト】
 助産学講座 6 「助産診断・技術学Ⅱ [1] 妊娠期」 (医学書院)
 助産学講座 7 「助産診断・技術学Ⅱ [2] 分娩期・産褥期」 (医学書院)
 助産学講座 8 「助産診断・技術学Ⅱ [3] 新生児期・乳幼児期」 (医学書院)
 写真でわかる助産技術アドバンス (インターメディカ)

【参考図書・文献】

【科目】 助産診断技術学 実践Ⅱ	【時期】 後期 【単位 時間数】 1単位 16時間	【担当講師】（実務経験） 専任教員 宮下 宏美 (18年)
----------------------------	--	--

【概要】

ハイリスク妊産婦・新生児も増加し、周産期医療の高度化は加速している。そのため助産師は自己の役割と責務を自覚し、多職種と連携・協働することや高度な助産実践能力が求められている。臨地実習では主体的に実践できない分娩期の緊急の場面について学び、母子の健康逸脱や異常予測、異常発生時の対応に関する知識を深め、シミュレーション演習を通し、健康を逸脱した母子や家族の支援に必要な臨床判断能力と助産実践力を育成する。

【到達目標】

1. 異常発生時の救急処置・対応などの危機的管理行動について理解し、指導のもと実践できる。
 (知識・技能) (思考・判断・表現) (主体的に学習に取り組む態度)
2. 異常の病態や診断と治療、および今後の経過予測や助産ケアが説明できる。
 (知識・技能) (思考・判断・表現) (主体的に学習に取り組む態度)

【授業計画・内容】

回	内容	備考
第1,2回	ハイリスクにおける助産師の役割 母体一次救命処置について（母体急変時のABC） ・異常時の対応 ・母体急変の感知 ・母体急変時の初期対応 ・母体の心肺蘇生	講義 演習
第3,4回	緊急帝王切開時のシミュレーション演習 TeamSTEPPS を活用した演習	演習 ワーク
第5,6回	常位胎盤早期剥離時のシミュレーション演習 TeamSTEPPS を活用した演習	演習 ワーク
第7,8回	正常分娩後大出血時の対応シミュレーション演習 TeamSTEPPS を活用した演習 まとめ	演習 ワーク

【成績評価方法】

事前テスト 40点
 演習後レポート 60点

【特記事項】
【テキスト】

助産学講座7「助産診断・技術学Ⅱ【2】分娩期・産褥期」（医学書院）
 助産師基礎教育テキスト7「ハイリスク妊産婦・新生児のケア」（日本看護協会出版会）

【参考図書・文献】

産婦人科必修母体急変時の初期対応 第3版（メディカ出版）

【科目】 周産期ハイリスクケア	【時期】 前期 【単位 時間数】 1単位 30時間	【担当講師】（実務経験） ベルランド総合病院 助産師 高瀬 昌子（21年） 府中病院 助産師 片山 美保（24年） ベルランド総合病院 助産師 田原 優子（17年） ベルランド総合病院 小児科 医師 甲斐 昌彦（21年） ベルランド総合病院 産婦人科医師 小川 萌（6年） 専任教員 門雀 由加子（24年）
-------------------------------	--	--

【概要】

近年の周産期医療の進歩や少子高齢化に伴い、身体的心理社会的ハイリスク妊娠が増加している。妊娠・分娩・産褥・育児期を通しての基本的な助産ケアは、リスクの有無にかかわらず共通であるが、ハイリスクであるがゆえに、妊娠経過や親になることに対する不安やケアのニーズは高い。妊産褥婦とその家族の多様なニーズに応えるための知識・技術、ハイリスク妊産褥婦・新生児に対する援助の基本を学ぶ。

【到達目標】

- 産科異常や合併症をもつ妊産婦の治療の支援や安全で快適な生活に向けての助産ケアが理解できる。
(知識・技能) (思考力・判断力・表現力)
- 分娩期の異常の早期発見のポイントと助産ケアが理解できる。(知識・技能) (思考・判断・表現)
- 心理社会的ハイリスク妊婦と家族の特徴を理解し、必要な産ケアが理解できる。(知識・技能) (思考・判断・表現)
- ハイリスク新生児の生理的適応を助けるケア、神経行動学的成長発達を助けるケアが理解できる。
(知識・技能) (思考・判断・表現)
- 会陰縫合の基礎と実際について学ぶ。(知識・技能) (思考・判断・表現)
- 新生児蘇生のアルゴリズムに基づいた技術を修得する。(知識・技能) (思考・判断・表現)

【授業計画・内容】

回数	内容
第1～4回（高瀬）	ハイリスク妊娠とケア 妊娠期の異常とケア 心理社会的なハイリスク状態にある妊産婦と褥婦と家族へのケア
第5・6・7回（片山）	分娩期・産褥期の異常とケア
第8・9・10回（田原）	ハイリスク新生児と家族の助産ケア
第11・12回（甲斐）	NCPR—B コース認定講習
第13・14・15回（小川、門雀）	会陰切開・裂傷と会陰縫合術演習

【成績評価方法】

筆記試験 80点
 （高瀬講師 30点・片山講師 25点・田原講師 25点）
 事前課題・演習出席・事後レポート 20点
 （NCPR 10点）（会陰縫合 10点）

【特記事項】
【テキスト】

助産師基礎教育テキスト7「ハイリスク妊産褥婦・新生児へのケア」（日本看護協会出版会）
 「正常分娩の助産術 トラブルへの対応と会陰裂傷縫合」（医学書院）
 新生児蘇生法テキスト（メジカルビュー社）

【参考図書・文献】

助産学講座7「助産診断・技術学Ⅱ [2] 分娩期・産褥期」（医学書院）
 助産学講座8「助産診断・技術学Ⅱ [3] 新生児期・乳幼児期」（医学書院）

【科目】 ウィメンズヘルスケア	【時期】 前期 【単位 時間数】 1単位 30時間	【担当講師】（実務経験） 鳴門教育大学 基礎臨床教育部 教授 葛西真記子（4年） 聖泉大学 別科助産過程 准教授 佐保美奈子（16年） 大阪公立大学 ダイバーシティ研究環境研究所特認教授 巽 真理子（無し） 専任教員 村田 紋子（25年）																						
【概要】 性と生殖の健康を支援する専門職としてセクシュアリティの理解を深めたうえで、ウィメンズヘルスの視点から女性とその家族の一生涯を通じ、生活の質を高める助産ケアを提供するための基礎的能力を養う。																								
【到達目標】 1. セックス、ジェンダー、セクシャリティの関係について学び、人間にとってのセクシュアリティの意義が理解できる。 （知識・技能）（思考・判断・表現） 2. DVの構造と特徴、DVが引き起こす健康被害について理解し、DVに悩む女性への支援の在り方が認識できる。 （知識・技能）（思考・判断・表現） 3. 女性の健康を全人的に捉え、各ライフステージの関連性を見据え生涯を通じた健康支援が理解できる。 （知識・技能）（思考・判断・表現） 4. 家族計画の意義を理解し、対象に合わせた受胎調節指導が実施できる。 （知識・技能）（思考・判断・表現）（主体的に学習に取り組む態度）																								
【授業計画・内容】 <table border="1" data-bbox="132 976 1473 1462"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>内容</th> <th>回数</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第1回（葛西）</td> <td>性の分化と発達</td> <td rowspan="2">第9・10回 （村田）</td> <td rowspan="2">女性のライフサイクル各期の健康課題と支援</td> </tr> <tr> <td>第2回（葛西）</td> <td>性交と性反応</td> </tr> <tr> <td>第3・4回 （葛西）</td> <td>性機能不全と性別違和</td> <td>第11・12回 （村田）</td> <td>包括的性教育</td> </tr> <tr> <td>第5・6回 （佐保）</td> <td>セクシュアリティとケアリング</td> <td rowspan="3">第13・14・15回 （村田）</td> <td rowspan="3">家族計画の実際 ・家族計画の基礎知識、各種避妊法 ・家族計画のカウンセリングに必要な基礎知識と技術</td> </tr> <tr> <td>第7回（巽）</td> <td>家族社会とジェンダー</td> </tr> <tr> <td>第8回（巽）</td> <td>DVの構造と特徴</td> </tr> </tbody> </table>			回数	内容	回数	内容	第1回（葛西）	性の分化と発達	第9・10回 （村田）	女性のライフサイクル各期の健康課題と支援	第2回（葛西）	性交と性反応	第3・4回 （葛西）	性機能不全と性別違和	第11・12回 （村田）	包括的性教育	第5・6回 （佐保）	セクシュアリティとケアリング	第13・14・15回 （村田）	家族計画の実際 ・家族計画の基礎知識、各種避妊法 ・家族計画のカウンセリングに必要な基礎知識と技術	第7回（巽）	家族社会とジェンダー	第8回（巽）	DVの構造と特徴
回数	内容	回数	内容																					
第1回（葛西）	性の分化と発達	第9・10回 （村田）	女性のライフサイクル各期の健康課題と支援																					
第2回（葛西）	性交と性反応																							
第3・4回 （葛西）	性機能不全と性別違和	第11・12回 （村田）	包括的性教育																					
第5・6回 （佐保）	セクシュアリティとケアリング	第13・14・15回 （村田）	家族計画の実際 ・家族計画の基礎知識、各種避妊法 ・家族計画のカウンセリングに必要な基礎知識と技術																					
第7回（巽）	家族社会とジェンダー																							
第8回（巽）	DVの構造と特徴																							
【成績評価方法】 筆記試験 45点（村田講師） レポート試験 25点（葛西講師） レポート試験 15点（佐保講師） 課題 15点（巽講師）	【特記事項】 助産師は、マタニティケアだけでなく、女性が生涯健やかに過ごすためのケアの担い手でもあります。性と生殖に関する健康を支援する専門職としてセクシュアリティの理解を深め、女性の健康支援について学びましょう。																							
【テキスト】 助産師基礎教育テキスト第2巻「ウィメンズヘルス」（日本看護協会出版会） 【参考図書・文献】 助産学講座2「母子の基礎科学」（医学書院） 助産学講座4「母子の心理社会学」（医学書院） 助産学講座5「助産診断・技術学Ⅰ」（医学書院）																								

【科目】 健康教育実践	【時期】 通年 【単位 時間数】 1単位 16時間	【担当講師】（実務経験） 専任教員 宮下 宏美 (18年)																					
【概要】 模擬妊婦に対して出産準備クラスを企画・運営し、健康の保持増進に必要な集団への教育活動についての基本を学ぶ。																							
【到達目標】 1. 相談・教育活動の基本が理解できる。(知識・技能)(思考・判断・表現) 2. 出産準備クラスの企画・運営・評価ができる。(主体的に学習に取り組む態度)																							
【授業計画・内容】 <table border="1" data-bbox="196 730 1422 1507"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>内容</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第1回</td> <td> 集団指導 ・集団指導におけるアプローチ ・特定の教育現場におけるアプローチ 出産準備教育 </td> <td></td> </tr> <tr> <td>第2回</td> <td> 教育技術の基本① ・アクティブラーニング ・学習者のアセスメント ・学びの場づくり </td> <td>演習含</td> </tr> <tr> <td>第3回</td> <td> 教育技術の基本② ・教育の方法 ・教材・媒体の工夫 </td> <td>演習含</td> </tr> <tr> <td>第4回</td> <td> 健康教育の実際 ・教育活動の目的 ・教育活動の考え方 ・教育活動の企画書 計画書 </td> <td>演習含</td> </tr> <tr> <td>第5.6回</td> <td> 出産準備教育の企画・運営 </td> <td>グループワーク 演習</td> </tr> <tr> <td>第7.8回</td> <td> 発表 リフレクション </td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			回数	内容	備考	第1回	集団指導 ・集団指導におけるアプローチ ・特定の教育現場におけるアプローチ 出産準備教育		第2回	教育技術の基本① ・アクティブラーニング ・学習者のアセスメント ・学びの場づくり	演習含	第3回	教育技術の基本② ・教育の方法 ・教材・媒体の工夫	演習含	第4回	健康教育の実際 ・教育活動の目的 ・教育活動の考え方 ・教育活動の企画書 計画書	演習含	第5.6回	出産準備教育の企画・運営	グループワーク 演習	第7.8回	発表 リフレクション	
回数	内容	備考																					
第1回	集団指導 ・集団指導におけるアプローチ ・特定の教育現場におけるアプローチ 出産準備教育																						
第2回	教育技術の基本① ・アクティブラーニング ・学習者のアセスメント ・学びの場づくり	演習含																					
第3回	教育技術の基本② ・教育の方法 ・教材・媒体の工夫	演習含																					
第4回	健康教育の実際 ・教育活動の目的 ・教育活動の考え方 ・教育活動の企画書 計画書	演習含																					
第5.6回	出産準備教育の企画・運営	グループワーク 演習																					
第7.8回	発表 リフレクション																						
【成績評価方法】 演習・発表 50点 課題提出 50点	【特記事項】 出産準備教育を企画・発表します。現代どのようなクラスが開催されているか把握し、社会の変化や妊産婦さんのニーズに合わせた楽しいクラスをめざしましょう。																						
【テキスト】 助産学講座5「助産診断・技術学Ⅰ」(医学書院)																							
【参考図書・文献】																							

【科目】 助産学研究Ⅰ	【時期】 通年 【単位 時間数】 1単位 30時間	【担当講師】(実務経験) 京都女子大学 発達教育学部 教授 岩原 昭彦 (無し)																																	
【概要】 助産学の研究に必要な理論と方法を学び、研究的姿勢を修得する。																																			
【到達目標】 ①研究の基礎理論を学び、科学的手法による研究プロセスを理解する。 (知識・技能) ②自主的に研究テーマを選択し、グループ研究に取り組むことができる。 (知識・技能)(思考・判断・表現)(主体的に学びに取り組む態度) ③調査研究を実施し、学内研究発表ができる。 (知識・技能)(思考・判断・表現)(主体的に学びに取り組む態度)																																			
【授業計画・内容】 <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 10%;">第 1 回</td> <td style="width: 15%;">研究の基本的理解</td> <td style="width: 75%;">①倫理的配慮</td> </tr> <tr> <td>第 2 回</td> <td>研究の基本的理解</td> <td>②文献検索・検討</td> </tr> <tr> <td>第 3 回</td> <td>テーマ設定</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第 4 回</td> <td>研究計画の立案</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第 5・6 回</td> <td>質問紙の作成①</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第 7 回</td> <td>質問紙の作成②</td> <td>研究計画書・研究倫理審査申請書作成</td> </tr> <tr> <td>第 8 回</td> <td>分析方法①</td> <td>結果の集計</td> </tr> <tr> <td>第 9 回</td> <td>分析方法②</td> <td>データの解析</td> </tr> <tr> <td>第 10・11 回</td> <td>データの解析、考察</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第 12・13 回</td> <td>プレゼンテーション準備</td> <td>抄録作成・発表原稿作成</td> </tr> <tr> <td>第 14・15 回</td> <td>研究発表会</td> <td>全体のまとめ</td> </tr> </table>			第 1 回	研究の基本的理解	①倫理的配慮	第 2 回	研究の基本的理解	②文献検索・検討	第 3 回	テーマ設定		第 4 回	研究計画の立案		第 5・6 回	質問紙の作成①		第 7 回	質問紙の作成②	研究計画書・研究倫理審査申請書作成	第 8 回	分析方法①	結果の集計	第 9 回	分析方法②	データの解析	第 10・11 回	データの解析、考察		第 12・13 回	プレゼンテーション準備	抄録作成・発表原稿作成	第 14・15 回	研究発表会	全体のまとめ
第 1 回	研究の基本的理解	①倫理的配慮																																	
第 2 回	研究の基本的理解	②文献検索・検討																																	
第 3 回	テーマ設定																																		
第 4 回	研究計画の立案																																		
第 5・6 回	質問紙の作成①																																		
第 7 回	質問紙の作成②	研究計画書・研究倫理審査申請書作成																																	
第 8 回	分析方法①	結果の集計																																	
第 9 回	分析方法②	データの解析																																	
第 10・11 回	データの解析、考察																																		
第 12・13 回	プレゼンテーション準備	抄録作成・発表原稿作成																																	
第 14・15 回	研究発表会	全体のまとめ																																	
【成績評価方法】 演習参加度、課題提出、研究発表 100点	【特記事項】 適宜研修時間を利用する 実際の研究活動を通して、科学的な研究手法が学べるように、一人一人がグループ活動に積極的に参加すること。																																		
【テキスト】 助産学講座1「助産学概論」(医学書院) 黒川祐子の看護研究 Step by Step (医学書院) 【参考図書・文献】																																			

【科目】 助産学研究Ⅱ	【時期】 通年 【単位 時間数】 1単位 16時間	【担当講師】（実務経験） 専任教員 村田 紋子 （25年）												
【概要】 継続事例実習の事例研究論文作成について教授する。論文指導教員による個人指導という形をとり、根拠に基づいた助産ケアの実践について考察し、自己の助産観を明確にする。														
【到達目標】 1. 助産実践に関する文献レビューができる。（知識・技術）（思考・判断・表現） 2. 継続事例実習での助産実践を振り返り、研究のプロセスに沿って論文を作成することができる。（知識・技術）（思考・判断・表現） 3. 自己の助産観を表現することができる。（思考・判断・表現）（主体的に学習に取り組む態度）														
【授業計画・内容】 <table border="1" data-bbox="347 824 1417 1574"> <thead> <tr> <th data-bbox="347 824 708 869">回数</th> <th data-bbox="708 824 1417 869">内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="347 869 708 1111"> 第1・2回（前期） 興味のある分野の論文を探そう！ </td> <td data-bbox="708 869 1417 1111"> 1. 助産学と研究 2. 助産学における対象を理解するための理論 3. 研究と倫理 4. 事例研究の実際 5. 文献検索の方法 </td> </tr> <tr> <td data-bbox="347 1111 708 1263"> 第3回（前期） 論文を読んでみよう！ </td> <td data-bbox="708 1111 1417 1263"> 1. 論文の構成 2. 文献レビュー 3. グループ発表 </td> </tr> <tr> <td data-bbox="347 1263 708 1375"> 第4回（後期） 研究計画書を書こう！ </td> <td data-bbox="708 1263 1417 1375"> 1. 事例研究の目的と意義 2. 研究計画書の内容と作成する意義 </td> </tr> <tr> <td data-bbox="347 1375 708 1487"> 第5・6・7回（後期） 論文を作成しよう！ </td> <td data-bbox="708 1375 1417 1487"> 指導教員による個人指導 （研究計画書・論文の指導を6回以上受けること） </td> </tr> <tr> <td data-bbox="347 1487 708 1574"> 第8回（後期） 発表の準備をしよう！ </td> <td data-bbox="708 1487 1417 1574"> 1. 発表資料（抄録、パワーポイント）の作成 </td> </tr> </tbody> </table>			回数	内容	第1・2回（前期） 興味のある分野の論文を探そう！	1. 助産学と研究 2. 助産学における対象を理解するための理論 3. 研究と倫理 4. 事例研究の実際 5. 文献検索の方法	第3回（前期） 論文を読んでみよう！	1. 論文の構成 2. 文献レビュー 3. グループ発表	第4回（後期） 研究計画書を書こう！	1. 事例研究の目的と意義 2. 研究計画書の内容と作成する意義	第5・6・7回（後期） 論文を作成しよう！	指導教員による個人指導 （研究計画書・論文の指導を6回以上受けること）	第8回（後期） 発表の準備をしよう！	1. 発表資料（抄録、パワーポイント）の作成
回数	内容													
第1・2回（前期） 興味のある分野の論文を探そう！	1. 助産学と研究 2. 助産学における対象を理解するための理論 3. 研究と倫理 4. 事例研究の実際 5. 文献検索の方法													
第3回（前期） 論文を読んでみよう！	1. 論文の構成 2. 文献レビュー 3. グループ発表													
第4回（後期） 研究計画書を書こう！	1. 事例研究の目的と意義 2. 研究計画書の内容と作成する意義													
第5・6・7回（後期） 論文を作成しよう！	指導教員による個人指導 （研究計画書・論文の指導を6回以上受けること）													
第8回（後期） 発表の準備をしよう！	1. 発表資料（抄録、パワーポイント）の作成													
【成績評価方法】 課題レポート 15点（周産期の助産ケアに関する文献のレビュー） 事例研究論文 85点		【特記事項】 論文作成にあたっては、自分が何を明らかにしたいかを明確にすることが重要です。個人指導においても皆さんからの積極的な質問を期待しています。												
【テキスト】 黒川祐子の看護研究 Step by Step（医学書院） 助産学講座1「助産学概論」（医学書院） 【参考図書・文献】 看護のためのわかりやすいケーススタディの進め方（照林社）														

【科目】 地域助産活動	【時期】 後期 【単位 時間数】 2単位 30時間	【担当講師】(実務経験) 関西医科大学看護学部 広域看護分野 地域看護学領域 助教 中原 洋子 (19年) 地域助産師 大阪府妊娠 SOS 相談員 渡邊寿美子 (29年) 関西医科大学看護学部 教授 助産師 酒井ひろ子 (12年) 専任教員 村田 紋子 (25年)
---------------------------	--	---

【概要】

地域母子保健の現状と課題、乳幼児の発達と母親のメンタルヘルスについての理解を深め、多職種と協働した包括的な子育て支援を学ぶ。また、妊産婦の健康に関する世界的な動向を知り、グローバルな視点からも助産活動を考えていく。

【到達目標】

1. 地域における母子保健のニーズと母子保健サービスの実際を学ぶ。(知識・技能)
2. 乳幼児がいる家庭の特徴と成長発達を促す支援を理解し、多職種と協働した子育て支援を考えることができる。(思考・判断・表現)
3. グローバルな視点から助産活動を捉え、今後の地域助産活動を考えることができる。(思考・判断・表現) (主体的に学習に取り組む態度)

【授業計画・内容】

回数	内容	回数	内容
第1回 (中原)	地域の概念、地域の特性と地域母子保健統計資料の分析	第9回 第10回 第11回 (渡邊)	地域での助産活動の実際 ・新生児訪問 ・育児広場、育児相談、母乳相談 ・産後ケア ・4か月健診 ・思春期教室、不妊相談
第2回 (中原)	母子保健をめぐる諸問題と課題 わが国の母子保健行政		
第3回 (中原)	母子保健制度の概要		
第4回 (中原)	わが国の母子保健施策 ・健康日本21と健やか親子21 ・少子化社会対策大綱と次世代育成支援対策促進法・市町村母子保健計画の推進	第12回 第13回 (酒井)	諸外国の母子保健活動 海外在住日本人の母子保健 在日外国人の母子保健
第5回 第6回 第7回 (村田)	成長発達への支援 ・乳幼児の発達を促す支援 ・乳幼児の社会性を促進する支援 ・乳幼児に起こりやすい事故の予防と対策 ・幼児の疾病予防への支援		
第8回 (村田)	・乳幼児をもつ母親や家庭の特徴 ・切れ目のない支援のための関係職種との連携		
		第14回 第15回 (酒井)	助産師活動の実際 国際的な取り組み ミレニアム開発目標と現状

【成績評価方法】

筆記試験 50点 (中原講師 30点・村田講師 20点)
 レポート試験 50点 (渡邊講師 20点・酒井講師 30点)

【特記事項】
【テキスト】

助産学講座9「地域母子保健・国際母子保健」(医学書院)
 助産師基礎教育テキスト6「産褥期のケア」(日本看護協会出版会)
 助産学講座8「助産診・断技術学Ⅱ[3]新生児期・乳幼児期」(医学書院)

【参考図書・文献】

・母子保健の主なる統計・わが国の母子保健・母子健康手帳

【科目】 助産管理Ⅰ	【時期】 前期 【単位 時間数】 1単位 16時間	【担当講師】（実務経験） 専任教員 門雀由加子（24年） 法人本部事務局 池上 正樹（無し） ベルランド総合病院助産師 富田 正美（25年） 府中病院 助産師 片山 美保（24年） 母微笑助産院 院長 藤原 鏡子（40年）												
【概要】 マネジメントの概念を学び、人材(ヒト)・物財(モノ)・資金(カネ)・時間・情報などの基本資源を理解し、それらを効率的・効果的に活用し、安全で安心できる助産を提供するための助産業務管理の実際を学ぶ。														
【到達目標】 1. 助産業務と助産管理の概要が理解できる。(知識・技能) (思考・判断・表現) 2. 病院における助産業務管理が理解できる。(知識・技能) (思考・判断・表現) 3. 助産所における助産業務管理が理解できる。(知識・技能) (思考・判断・表現) 4. 助産管理の視点から自己の課題を考えることができる。 (思考・判断・表現) (主体的に学習に取り組む態度)														
【授業計画・内容】 <table border="1" data-bbox="268 1003 1233 1574"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第1・2回 (門雀)</td> <td>助産管理の基本 管理の基本概念とプロセス、助産管理の概念 関連法規と助産師の義務・責任、助産業務管理過程</td> </tr> <tr> <td>第3回 (池上)</td> <td>助産と医療経済 医療保険制度と助産業務、助産業務の診療報酬、分娩費用</td> </tr> <tr> <td>第4回 (富田)</td> <td>周産期医療システム 周産期搬送システム、オープンシステム</td> </tr> <tr> <td>第5回 (片山)</td> <td>病院での助産業務管理 産科棟の管理、院内助産、外来の助産管理(産科外来・助産外来・母乳外来)</td> </tr> <tr> <td>第6～8回 (藤原)</td> <td>助産所における助産業務管理 助産所とは、助産所の管理に関する法規、助産所の管理/運営、助産所の経営、助産業務ガイドライン</td> </tr> </tbody> </table>			回数	内容	第1・2回 (門雀)	助産管理の基本 管理の基本概念とプロセス、助産管理の概念 関連法規と助産師の義務・責任、助産業務管理過程	第3回 (池上)	助産と医療経済 医療保険制度と助産業務、助産業務の診療報酬、分娩費用	第4回 (富田)	周産期医療システム 周産期搬送システム、オープンシステム	第5回 (片山)	病院での助産業務管理 産科棟の管理、院内助産、外来の助産管理(産科外来・助産外来・母乳外来)	第6～8回 (藤原)	助産所における助産業務管理 助産所とは、助産所の管理に関する法規、助産所の管理/運営、助産所の経営、助産業務ガイドライン
回数	内容													
第1・2回 (門雀)	助産管理の基本 管理の基本概念とプロセス、助産管理の概念 関連法規と助産師の義務・責任、助産業務管理過程													
第3回 (池上)	助産と医療経済 医療保険制度と助産業務、助産業務の診療報酬、分娩費用													
第4回 (富田)	周産期医療システム 周産期搬送システム、オープンシステム													
第5回 (片山)	病院での助産業務管理 産科棟の管理、院内助産、外来の助産管理(産科外来・助産外来・母乳外来)													
第6～8回 (藤原)	助産所における助産業務管理 助産所とは、助産所の管理に関する法規、助産所の管理/運営、助産所の経営、助産業務ガイドライン													
【成績評価方法】 筆記試験 100点 (門雀30点・池上講師10点・富田講師10点・片山講師10点・藤原講師40点)	【特記事項】													
【テキスト】 助産学講座10「助産管理」(医学書院) 助産業務ガイドライン(日本助産師会) 【参考図書・文献】														

【科目】 助産管理Ⅱ	【時期】 通年 【単位 時間数】 1単位 16時間	【担当講師】（実務経験） 専任教員 門雀由加子（24年） 生長会 クオリティマネジメント本部 楠本 茂雅（18年） 府中病院 クオリティ管理センター 感染制御室 高橋 陽一（20年）										
【概要】 母児の安全を第一に考えることは周産期医療に携わるものの基本姿勢であり、生命の出発点に安全・安心に配慮した助産ケアを遂行していくことが責務である。周産期の医療事故の特徴や法的責任や事故発生時の対応を学ぶ。また、災害時の母子の支援について演習を通して、有事の際に行動できる基礎的な能力を養う。												
【到達目標】 1. ヒアリハット事例を振り返り、事故防止対策を考えることができる。 (思考・判断・表現) (主体的に学習に取り組む態度) 2. 周産期における医療事故の特徴とチームで取り組む事故防止の必要性がわかる。 (知識・技能) (思考・判断・表現) 3. 周産期病棟の感染管理の特徴が理解できる。(知識・技能) (思考・判断・表現) 4. 災害時における母子の安全を守る対応を考えることができる。 (知識・技能) (思考・判断・表現) (主体的に学習に取り組む態度)												
【授業計画・内容】 <table border="1" data-bbox="263 913 1321 1444"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第1・2・3回 (門雀)</td> <td>助産業務におけるリスクマネジメント 前期実習終了時、後期実習終了時にヒアリハット事例の共有を行う。</td> </tr> <tr> <td>第3・4回 (楠本)</td> <td>周産期におけるリスクマネジメント 周産期における医療事故、チームで取り組む事故防止と初期対応、 チームステップス</td> </tr> <tr> <td>第5回 (高橋)</td> <td>周産期における感染リスクマネジメント 感染リスクマネジメントの視点 医療施設における感染リスクマネジメント</td> </tr> <tr> <td>第7・8回 (門雀)</td> <td>災害時リスクマネジメント 日頃の備え、災害時の妊婦、産婦、母子のケア 避難所における分娩介助(演習)</td> </tr> </tbody> </table>			回数	内容	第1・2・3回 (門雀)	助産業務におけるリスクマネジメント 前期実習終了時、後期実習終了時にヒアリハット事例の共有を行う。	第3・4回 (楠本)	周産期におけるリスクマネジメント 周産期における医療事故、チームで取り組む事故防止と初期対応、 チームステップス	第5回 (高橋)	周産期における感染リスクマネジメント 感染リスクマネジメントの視点 医療施設における感染リスクマネジメント	第7・8回 (門雀)	災害時リスクマネジメント 日頃の備え、災害時の妊婦、産婦、母子のケア 避難所における分娩介助(演習)
回数	内容											
第1・2・3回 (門雀)	助産業務におけるリスクマネジメント 前期実習終了時、後期実習終了時にヒアリハット事例の共有を行う。											
第3・4回 (楠本)	周産期におけるリスクマネジメント 周産期における医療事故、チームで取り組む事故防止と初期対応、 チームステップス											
第5回 (高橋)	周産期における感染リスクマネジメント 感染リスクマネジメントの視点 医療施設における感染リスクマネジメント											
第7・8回 (門雀)	災害時リスクマネジメント 日頃の備え、災害時の妊婦、産婦、母子のケア 避難所における分娩介助(演習)											
【成績評価方法】 課題提出・演習参加度 70点(門雀講師) レポート 30点(楠本講師 20点、高橋講師 10点)	【特記事項】											
【テキスト】 助産学講座10「助産管理」(医学書院) 助産師基礎教育テキスト第3巻「周産期における医療の質と安全」(日本看護協会出版会) 【参考図書・文献】												